

## 第22回 車掌分科全国連絡会

12月2日と12月3日の2日間にわたり、新横浜機関区(鉄道居酒屋)、エスカル横浜(横浜海員会館)にて、車掌業務に携わっている全国の国労組合員による協議会が行われ、職場の問題点やJR各社の動きについての近況報告を行いました。九州からは西原(鹿児島乗務センター)、田原(門司車掌区)、香田(博多車掌区『地区本部』)の3名が参加し、JR九州の乗務員職場の現状について報告し、今後の取り組みについて、それぞれの意見を述べました。

### JR他社の動き

(「JR東日本グループ経営ビジョン変革2027」による新たな「ジョブローテーション」の実施)

- ①車掌試験・運転士試験を廃止する。
- ②車掌を経ずに運転士になることを可能とする。
- ③車掌及び運転士の職名を「乗務係」「乗務指導係」「乗務主任」「乗務主務」に統一する。
- ④駅配属の中途採用社員が乗務員へ移動することを可能とする。
- ⑤同一担務の従事期間が最長でも概ね10年を超えないように異動又は担務変更することとする。



交流会後の集合写真  
(エスカル横浜にて)

### 連絡会に参加しての感想

今回の会議に参加して、九州だけではなく、JR他社の現状について知ることが出来たというのはもちろんのこと、それ以上に「労働組合の意義」について考えさせられました。この集会は全国から車掌の仕事が本当に好きな方々が集まってくるため、参加者の皆様からは、何とかして働きやすい職場環境にしたいという気持ちが伝わってきます。建前ではなく本音で議論が行われると、たとえ自分と意見が全く違った方がいても「このような考えもあるのか」と謙虚な姿勢で受け入れられるものです。実際、私も皆様方には無礼な発言をすることもありましたが、それでも快く受け入れてもらうことができ、感謝のもとこの記事を書いています。多くの職場では、厳しい労働環境の中、不満の矛先をどこに向けたいのか分からず苦勞している方が多いように思われます。確かに、労働条件は組合が要求しても、そう簡単には変わるものではないのかもしれませんが、しかし、職場で誰もが同じ方向を向かされ息苦しさを感ずる中、「自分を表現する」手段として、このような場があることは大変重要なことであり、これこそが、「全国組織」である国労の魅力なのではないかと私は思います。

### ○当面する行動

- 12月19日(木) 13:00～交通対策会議・ダイヤ改正要求のための職場集会
- 12月20日(金) 13:30～九州朝高生修学支援の国家賠償請求控訴審の傍聴
- 12月28日(土) 11:00～地区本部事務所大掃除